

羽幌町

水谷友香

1. 概要と歴史

1.1 地名の由来

天塩山脈を背後とし、日本海に浮かぶ2つの自然の宝庫、天売島・焼尻島を持ち、アイヌ語でハポロペツと呼ばれる、大海に注ぐ『流出広大ノ川』を由来とする地域が羽幌町である。

1.2 歴史

かつて開拓以前のはぼろの地は、永い間アイヌ民族だけが居住をしていた。ハポロに、初めて倭人が移住してきたのは1885年であり、1886年には青森県人の立崎熊次郎らが、1887年には石川県人斉藤知一ら20数人が移住し漁業が盛んになってきた。

1894年2月『苫前郡白志泊村ヲ廃シ苫前村を分割シテ』羽幌村が誕生し、本格的な原野の開拓が1896年に福井、富山、熊本地方など各地からの移住者の入植により始まり、その当時には戸数も約400戸に達したと言われ、今日の実り豊かな羽幌町の基礎が築かれてきた。その後、1897年7月15日に苫前戸長役場から分離独立して羽幌村戸長役場が開庁する。1921年には人口8千人を超え、念願の町制が施行された。

羽幌町の歴史を思い起こせば、農業、漁業の一次産業を中心として発展し、1932年国鉄羽幌線の開通、その後羽幌炭鉱の採炭開始、天売村、焼尻村との合併、港湾整備、名羽線の着工と先人のたゆまぬ努力と苦勞によりさまざまな町づくりへの取組が進められてきた。その後、急速な社会環境の変化に伴い、羽幌町の基幹産業であった羽幌炭鉱が閉山、さらに国鉄羽幌線の廃止と主要官公庁の撤退などに伴って人口も大幅に減少し、より一層過疎化現象が進み、まちづくりにも大きな影響を受けてきた。

(表1. 簡易年表)

- 1894年 羽幌村が設置される
- 1897年 羽幌村戸長役場が設置される
- 1902年 二級町村制施行
- 1909年 一級町村制施行
- 1921年 町制施行
- 1955年 天売村を合併する
- 1959年 焼尻村を合併する
- 1997年 ふるさと羽幌100年記念式典を行う

2. 地理と気候

2.1 地図

羽幌町の北海道における位置は、下記の図の通りである。

(図 1. 道内における羽幌町の位置)



出典:北海道市町村ガイドHP

(図 2. 拡大図)



出典:北海道市町村ガイドHP

留萌からは日本海を左に見ながら国道232号を北上し、留萌管内の各町村を經由して羽幌町に至る。車でだいたい160分程度かかる。札幌から留萌へ出るには、国道275号、233号を利用して留萌に出るか、国道231号を利用する。また、道央自動車道で深川まで行き、深川・留萌自動車道で秩父別まで行き国道233号で留萌に出るのが時間的には最短となる。

2.2 緯度・経度

羽幌町における緯度、および経度は以下の通りとなる。

(表 2. 役場及び町の緯度・経度)

		羽幌町
役場の位置	(北緯)	44度21分30秒
	(東経)	141度42分05秒
東端	(東経)	142度04分13秒
西端	(東経)	141度17分44秒
南端	(北緯)	44度12分17秒
北端	(北緯)	44度27分10秒

「平成12年度版 日本の市区町村位置情報要覧」(建設省国土地理院)

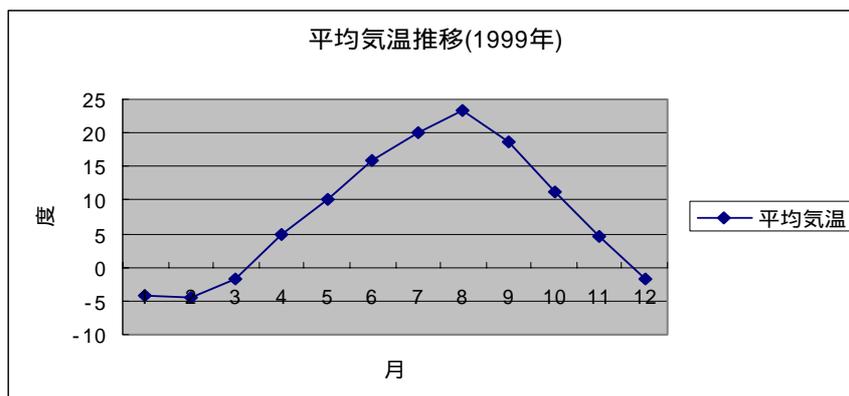
出典:市町村別統計データHP

上の表から羽幌町が北海道の中央よりやや西の端のほうにあることが分かる。また、羽幌町は留萌管内のだいたい中心に位置している。

2.3 気候

年間の気温の変化は次のようになる。

(図 3. 年間気温の推移)



平成11年気象庁年報(暫定値)、観測所気象年報(暫定値)[道内分](札幌気象台)

出典:市町村別統計データHP

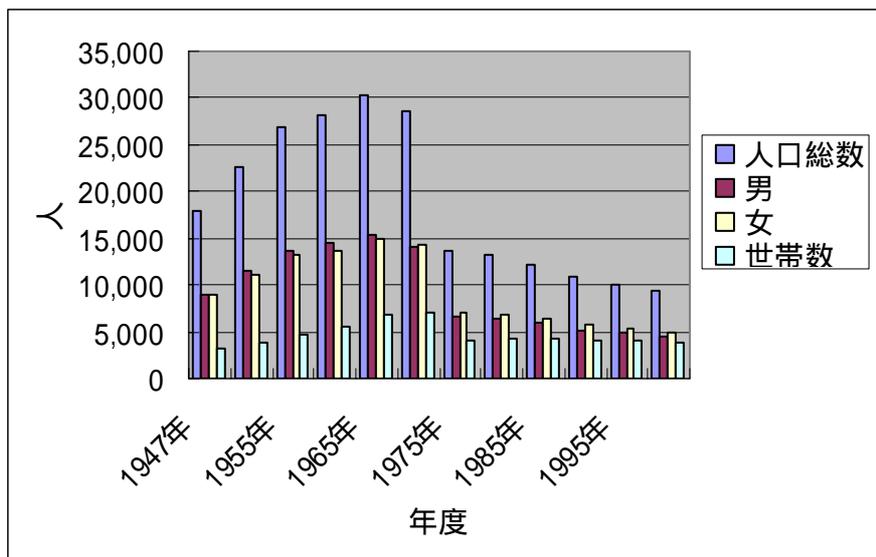
上の図から、冬は寒く夏は暑いという北海道の特徴的な気候であることが分かる。年平均気温は7月前後で北海道平均と大差はないが、沿岸に対馬海流の影響を受け比較的温暖なため寒暖の差が少なく、大雨や地震等の災害がほとんど無いことから、とても過ごしやすい環境となっている。また、夏期の対馬海流の影響により、水稻栽培の適地とされており、古くから農業・漁業が発達してきている。

3.人口・世帯数の推移

3.1 人口の推移

羽幌町の戦後の人口の推移を、グラフを中心に見ていく。

(図4.戦後の人口推移)



「国勢調査」(総務省統計局)

出典:市町村別統計データHP

上の図から1975年を境に極端に人口が減っていることが分かる。これは、1976年に北海道大小区画が定められ、苫前郡を苫前村、白志泊村、力昼村、焼尻村、天売村に区画されたことが原因にあると推測される。また、その後は少子化や過疎化といった現在の日本が抱える問題から、年々、減少傾向にある。

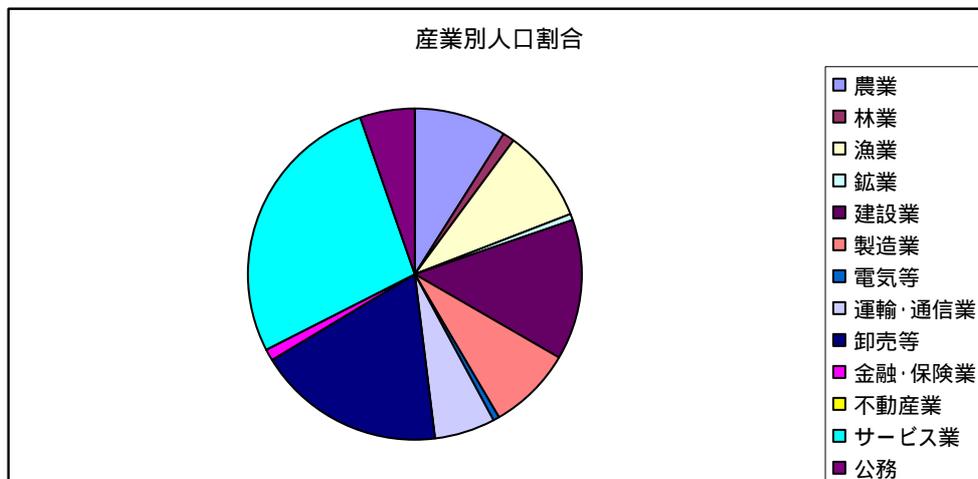
4. 産業・農業・観光

4.1 産業別従業者数

産業別従業者数の分布については以下の図の通りである。

下の図から、サービス業などの第三次産業に従事する人たちが多いことが分かる。また、農業や林業といった第一次産業は全体の四分の一もなく、減少傾向にあることもここから分かる。このことから、自然を大切に、共に歩いていくことを目標としている羽幌町でも、第一次産業だけでは経営していくことが困難であるということがここから読み取れる。

(図 5. 産業別人口割合)



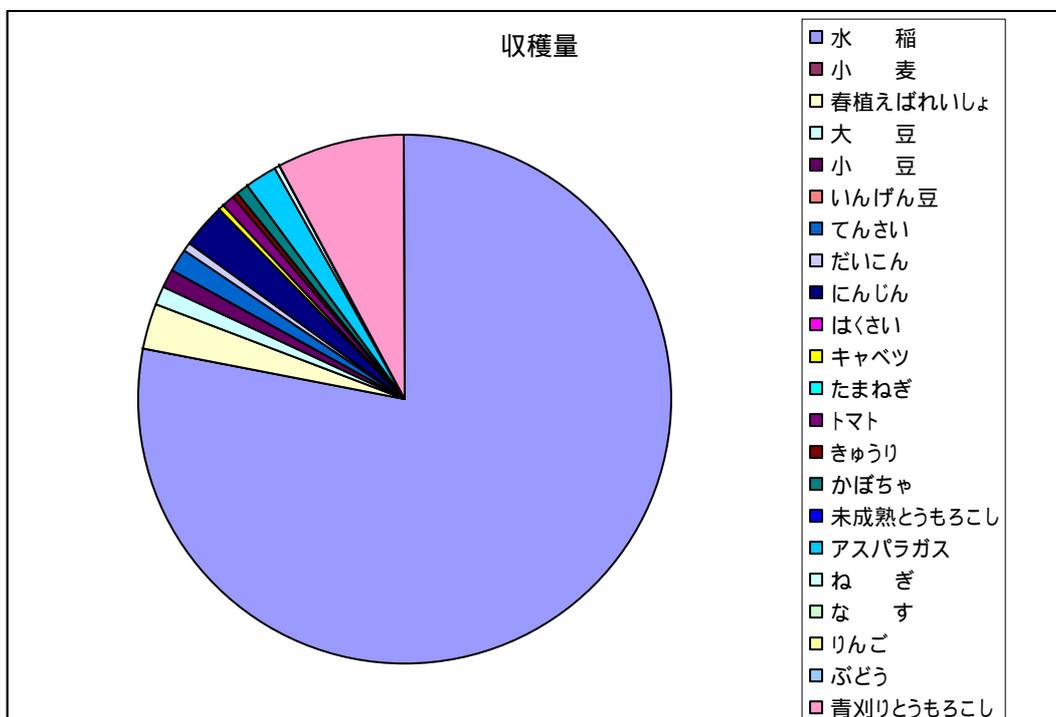
平成 12 年国勢調査による

出典: [表1 人口・世帯・面積HP](#)

4.2 農業

主な農作物の収穫量は以下の通りである。

(図 6. 農作物収穫量)



「北海道農林水産統計年報」(農林水産省北海道統計情報事務所)

出典: [市町村別統計データHP](#)

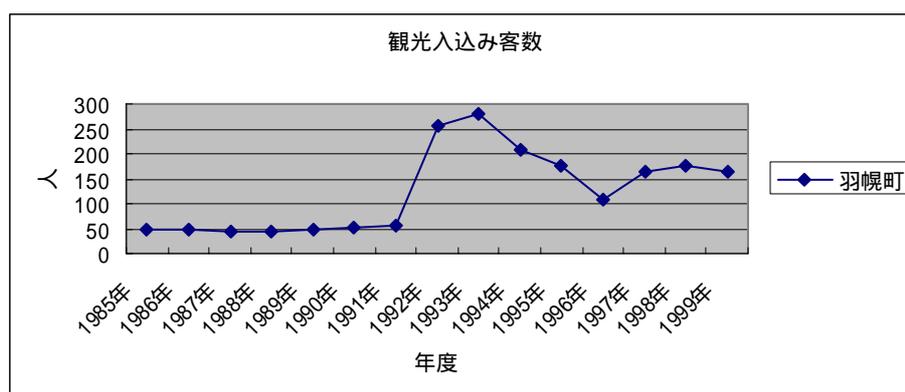
上の図から羽幌町において最も大きい割合を占めているものは水稲であることが分かる。これは

前述した通り、羽幌町の気候が水稻に向いている性質であるということがその理由となっているのに間違いはない。また、とうもろこしやばれいしょなどの作物の生産も盛んで、その他にもさまざまな種類の農作物を作っているということが窺える。

4.3 観光

観光客入れ込み数は以下の通りである。

(図 7. 観光客入込み状況(千人))



「北海道の観光客入込みに関する資料」(北海道経済部観光振興課)

出典：市町村別統計データHP

上の図から 1992 年を境に急激に観光客が増大していることが分かる。その理由としては、同年から行われた地熱(温泉)開発、ポーリング開発などが影響していると推測される。観光の拠点となる道の駅「ほっとはぼろ」は、温泉と多目的交流プラザ「サンセットプラザはぼろ」を中心に、世界のバラ 334 種、2000 株のバラが咲き誇る「はぼろバラ園」や海鳥を対象にした全国初めての施設「北海道海鳥センター」など多彩な交流の施設を備えている。観光名所としては、はぼろバラ園の中にある 愛の鐘 や せせらぎの丘、芝生公園などが挙げられる。また、夏の間には南国ムードを漂わせる椰子の木照明を配置した海水浴場「サンセットビーチ」が、ファミリー向けキャンプ場としても有名で、国内の有名アーティストによる野外ライブイベントや日本海に沈む夕陽の美しさから、道内各地から多くの観光客が訪れている。天売島・焼尻島という2つの島はそれぞれ「海鳥の島」・「オニコの島」として全国で紹介され、また、観光客も多数訪れている。

天売島は周囲 12km の小島で、羽幌から約 27km 沖合の日本海に浮かび、北海道本島に面した東海岸に約 500 人が住み、高さ 100m 以上の断崖が続く西海岸に、春から夏にかけて 8 種類百万羽近くの海鳥が繁殖する。かつて 5 万羽いたとされるオロロンチョウ(ウミガラス)が 20 羽にまで激減し、絶滅寸前にまで追い込まれたが、官民一体となって海鳥の保護に取り組んでいる。

周囲 12 キロ、人口約 500 人の焼尻島は、東側をうっそうとした森に被われ、春から秋にかけていろいろな草花が生い茂り、また、数多くの野鳥が訪れる。花の島とよばれる焼尻島だけに、見ることのできる花の種類も豊富に存在する。春にはカタクリやエゾエンゴサク、エンレイソウなどの可憐な花が島の周囲に群生し、夏になると黄色のエゾカンゾウや橙色のエゾスカシユリ、紅色のハマナス

などが咲き誇り、紺碧の日本海との美しい風景を見せる。

4.4 特産品

羽幌町の特産品には次のようなものがある。

・焼尻めん羊(サフォーク)

焼尻島で生産される仔羊は、潮風が運ぶ塩分やミネラル分が多く含まれた牧草を食べて育つため、肉質が柔らかく臭みも少ないと言われている。そのため、同様の気候で育つフランス産最高級ラム肉「プレサレ」にも比肩すると評価され、一流シェフ御用達の食材として全国に名前を知られる存在となった。

・甘えび

羽幌町は日本国内でも屈指の甘えび水揚量を誇っている。

北の日本海において、最大にして最高の漁場である武蔵堆で捕れた最高級の甘えびは、タンパク質やタウリン、キチン、アスタキサンチンがバランスよく含まれ、コレステロールや血圧を下げるなどの効果がある健康食品でもある。

この他にも合鴨、ねばり長いも、身欠きニシン、オガタン、ゼオライト、わかめ、焼酎、メロン、栗味カボチャなどが特産品として挙げられる。

また、羽幌町の特徴である炭鉱については、上羽幌鉱、羽幌炭鉱、築別炭鉱などが挙げられる。今回は特に羽幌炭鉱について書きたいと思う。

羽幌炭鉱は1940年に当時の太陽産業が開鉱。当初は馬で運んでいたが、1941年12月14日に羽幌炭鉱鉄道が開業し、評判の「煙の少ない良質炭」として順調に生産も推移してきた。しかし、時代の需要も石油へと変化していき、ついに1970年11月2日に閉山。羽幌炭鉱鉄道も存在意義をなくし同年12月15日にその幕を閉じた。廃墟と化した鉱山の写真からは、もう何年も人の手が加えられていないことが窺える。時代の移り変わりによって、羽幌の特徴であった炭鉱は廃れてしまったのである。

参照

市町村別統計データHP：<http://www.rumoi.pref.hokkaido.jp/ru-sinko/stat/local/f484habo.htm>

北海道市町村ガイドHP：

<http://www2.ocn.ne.jp/~abstract/212guide/07rumoi/haboro/haboro.htm>

表1 人口・世帯・面積HP：

http://www.pref.hokkaido.jp/hfukusi/hf-rumho/keikaku/6_Shiryouhen/6_shiryou.pdf#search='郷入 蟻橋伴%20 逕」謙」蛭」莠」蛭」%20 蝗」蝮」隠」諺」サ'

HABORO.TV HP：<http://www.haboro.tv/>

epoca22.mini HP：

<http://www.pref.hokkaido.jp/skikaku/sk-ssnji/epoca22/mini/no4/mini4index.htm>

炭鉱/鉱山HP：<http://yaeijin.fc2web.com/page002.html>